

R Markdown で日本語 beamer プレゼンテーション

ill-identified

2020-06-21

使い方

数式関係

図表の挿入

外部資料の引用方法

その他の機能

トラブルシューティング

おとめ

要件

- 想定される用途
 - Tokyo.R など R を使った話を発表する際の資料作成
 - 技術・アカデミック寄りの話題を想定
- 要求されるもの
 - **日本語表示**
 - ラスタまたはベクタ画像の挿入
 - 表の挿入
 - R コードを見やすく表示
 - 参考文献の相互参照/リスト自動生成
 - **LyX や overleaf より簡単であること**
 - **なんかナウでオサレな感じは求めてない**
 - 自由すぎるデザインは不可

先行研究の紹介

- 伊東『R Markdown と Beamer でプレゼンテーション資料作成』
 - Lua \LaTeX を使って日本語で Beamer スライド作成する方法
- 伊東先生の資料との違い:
 - エンジンを X \LaTeX に変更
 - 日本語文献 bib ファイル・bst ファイルに対応
 - スライド作例を多少充実させた
 - その他体裁にこだわりたい人向け
 - 「表 X」「図 X」といったキャプション

reveal.js じゃダメなの？

- 個人的にデザインとかあまり好きじゃない
- 上下左右に動いて空間識失調になる
 - (個人の体験です)
 - 上下のみにもできる
- html よりも不変な媒体にしたい
 - pdf が明確に優れているかは怪しい
- ~~Q: お前が使いこなせてないだけじゃないの？~~
 - ~~A: うるさい~~

パワーポイントじゃダメなの？

- 私は**持っていない**
- シンタックスハイライトが面倒
 - パワポの場合は**VSCode**か**reprex**でコピペ
- ドラッグ & ドロップで位置調整は便利
- しかしポンチ絵芸術になりがち
- 極力シンプルにして視線誘導の負担をなくすべき
 - 徹底するかは好みの問題

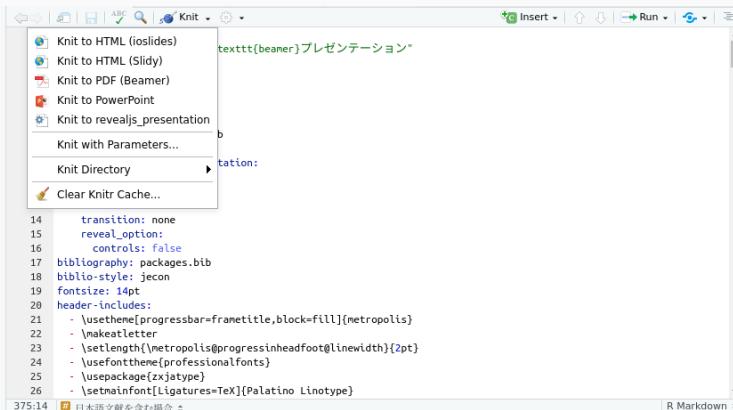
技術的に厄介だったところ

- html と pdf(L^AT_EX) とで微妙に違う挙動
 - ネット上の情報は html 前提が多い
 - pandoc チョットワカル必要
- 日本語を含む参考文献リスト
 - upB_IB_IT_EX の適用
 - 細かいオプション, 特に metropolis 特有の仕様
- RStudio Cloud で動くかは未確認
 - 日本語表示がおかしい説あり

使い方

基本

1. RStudio のツールバーの “knit”
2. またはドロップダウンして “Knit to PDF (Beamer)”



フォント指定

- 以下の箇所を適当に変える
- `set*font` は欧文用
- `setja*font` は和文用
- インラインでのフォント変更は**想定してない**
 - 不可能ではないが面倒

```
- \setmainfont{Palatino Linotype}
- \setsansfont{Arial}
- \setmonofont{Ricty Diminished}
- \setjamainfont{Noto Serif CJK JP}
- \setjasansfont{Noto Sans CJK JP}
- \setjamonofont{Ricty Diminished}
```

基本構文

- markdown 的な書き方でできる
- “## タイトル” でスライドの開始
 - \LaTeX コマンドも挿入可能

```
# 節見出し
## タイトル 1
- ** 太字 **
- _ 斜体 _
- `タイプライタ体`
```

- **太字**
- 斜体
- タイプライタ体

Beamer や RMarkdown 使用に役立つ資料

- 伊東『R Markdown と Beamer でプレゼンテーション資料作成』(Lua \LaTeX 使用)
- 松田『Beamer 読本-講演用スライド作成のために-』
- Kazutan『R Markdown によるスライド生成』
『R Markdown 入門』
- Atusy『R Markdown + XeLaTeX で日本語含め好きなフォントを使って PDF を出力する』
- R Markdown 2.0 チートシートの日本語訳,
Takahashi, M. 訳

もう少しくわしいやつ

- Atusy 『R Markdown ユーザーのための Pandoc's Markdown』
- 謝益輝 (yihui) “knitr - Elegant, flexible, and fast dynamic report generation with R” (開発者本人)
- Xie, Yihui & C. Dervieux “R Markdown Cookbook”



図 1: 謝益輝近影

今回使うパッケージ

- このファイル作成には以下を使用している
 - 図表作成とか最低限必要なものだけ

```
01 require(conflicted)
02 require(tidyverse)
03 require(ggthemes)
04 require(ggdag)
```

- 以下はインストールのみ/読み込む必要なし
 - citr: 引用文献の挿入を GUI で
 - bookdown: 数式を GUI で

ソースコードの表示: 基本事項

- `echo=T` でチャンク内コードを表示
 - デフォでは非表示
 - **自動でシンタックスハイライト**
- はみ出す場合は `tidy=F` して手動改行
 - 日本語等で折り返し地点がうまく行かない
- `class.source = "numberLines, LineAnchors"` で行番号表示 (参考)

ソースコードの表示: 出力例

```
```{r, echo=T, class.source = "numberLines",  
require(conflicted)
require(tidyverse)
require(ggthemes)
require(ggdag)
```
```

```
01 require(conflicted)  
02 require(tidyverse)  
03 require(ggthemes)  
04 require(ggdag)
```


数式関係

数式の挿入: 行内 (インライン)

- markdown 風の LaTeX コード埋め込み
- $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}$ の数式を \$ で挟む
- 例: らんま $\frac{1}{2}$
 - 出力: らんま $\frac{1}{2}$
 - 注: 行内で分数はスラッシュ使ったほうが見やすい
- セリフフォント使用
 - スライドはサンセリフが良いとされる
 - しかし数式の統一感がない
 - (個人の好み?)

数式の挿入: 独立行

- \$\$ で挟んだ範囲に L^AT_EX 構文

```
$$\begin{aligned}& \sin^2(x) + \cos^2(x) = 1\\& f(x) = \frac{1}{(2\pi)^2} \int_{\mathbb{R}^n} \hat{f}(\omega) \exp(i\omega x) d\omega\end{aligned}$$
```

$$\sin^2(x) + \cos^2(x) = 1$$

$$f(x) = \frac{1}{(2\pi)^2} \int_{\mathbb{R}^n} \hat{f}(\omega) \exp(i\omega x) d\omega$$

数式の挿入: bookdown の使用

1. RStudio のツールバー “Addins”
2. “Input LaTeX Math”

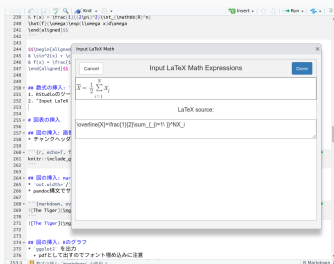


図 2: bookdown の数式入力機能

- 一部対応してない記号もある?
 - `\mathbb{}` とか `\hat{}` とか

図表の挿入

図の挿入: 画像ファイル貼り付け

- チャンクヘッダの
out.width=/out.height= でサイズ調整

```
knitr::include_graphics(c("img/tiger.eps",  
    "img/tiger.pdf", "img/tiger.png"))
```



図 3: いつもの虎 (TeXLive より)

図の挿入: markdown 構文で貼り付け

- `out.width=/out.height=` が適用されない
- pandoc 構文でサイズ指定

```
![The Tiger](img/tiger.pdf){ height=30% }
```



図 4: The Tiger

図の挿入: R のグラフ

- ggplot2 を出力
 - pdf として出すのでフォント埋め込みに注意
 - theme() が反映されるのはあくまで RStudio 上のもの
 - pdf では相対的フォントサイズが変わる問題

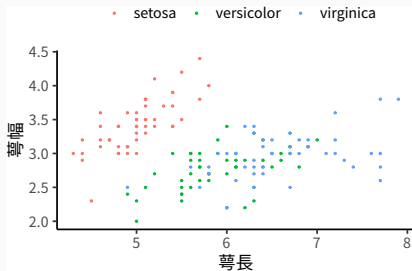


図 5: ggplot2 の出力例: iris データ

図の挿入: 再現可能なポンチ絵

- 概念図とかの図示はどうするか
 - NOT データの視覚化 (ビジュアライゼーション)
 - ggplot2 の本来の使い方ではない
- ggdag はネットワーク図に使える
 - 因果ダイアグラム, 遷移図, グラフィカルモデル等
- ggforce はベン図の描画に応用可能
 - 世間的にはグラフの部分拡大用パッケージ?
- 詳しくは個別のマニュアル参照
- 霞が関流ポンチ絵は**専門外**

図の挿入: ポンチ絵の例 1

- 以前作ったやつ^の転載

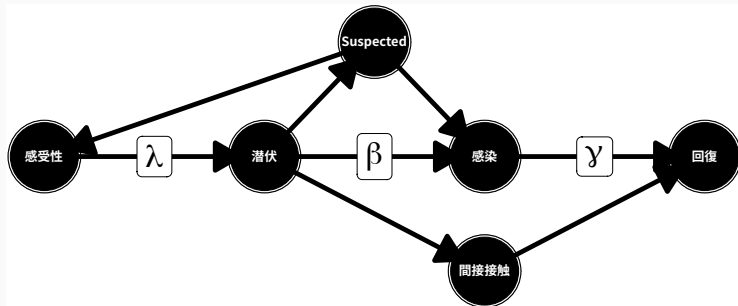


図 6: ggdag で作った YJ-SEIR モデルの遷移図

図の挿入: ポンチ絵の例 2

- `ggforce::geom_circle()` を利用
 - 参考: [How to Plot Venn Diagrams Using R, ggplot2 and ggforce](#)

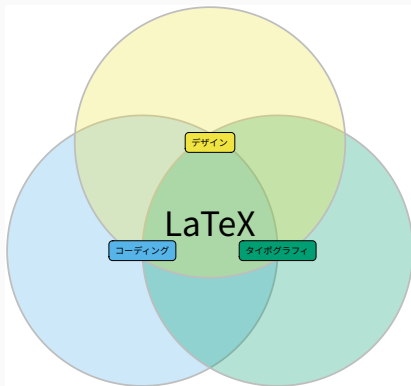


図 7: ベン図の例

表の挿入: データフレーム

- R のデータフレームとして作成して出す
 - はみ出す場合は縮小
 - 最低限の情報だけ掲載するのは大前提
 - df_print: kable では caption 指定がややこしい

```
data(iris)
knitr::kable(head(iris[, 1:3]),
               caption="kable() による表示")
```

表の挿入: データフレームを kable() で表示

```
data(iris)
knitr::kable(head(iris[, 1:3]),
               caption="kable() による表示")
```

表 1: kable() による表示

| Sepal.Length | Sepal.Width | Petal.Length |
|--------------|-------------|--------------|
| 5.1 | 3.5 | 1.4 |
| 4.9 | 3.0 | 1.4 |
| 4.7 | 3.2 | 1.3 |
| 4.6 | 3.1 | 1.5 |
| 5.0 | 3.6 | 1.4 |

表の挿入: LaTeX コード

- latex のコード
 - そのまま貼り付けることができる
 - `\input{tab.tex}` でコピーなしで貼り付け可
 - stargazer とかが生成したやつを貼れる
 - 凝ったことをしたいならこっち?

```
xtable::xtable(head(iris)) %>%  
  print(file = "tab.tex")
```

| | Sepal.Length | Sepal.Width | Petal.Length | Peta |
|---|--------------|-------------|--------------|------|
| 1 | 5.10 | 3.50 | 1.40 | |
| 2 | 4.90 | 3.00 | 1.40 | |

表の挿入: markdown

Table: 得点一覧


| クラス | 科目 | 平均 |
|-----|----|--------|
| A | 算数 | \$90\$ |
| B | 算数 | \$95\$ |

表 2: 得点一覧

| クラス | 科目 | 平均 |
|-----|----|----|
| A | 算数 | 90 |
| B | 算数 | 95 |

外部資料の引用方法

ハイパーリンクの挿入

- url は自動でリンク
 - <https://rstudio.com/>
- markdown 方式のリンク
 - [RStudio](https://rstudio.com/)
 - [RStudio](#)
- 画像にハイパーリンク  RStudio®

文献引用の方法

- `[@ref]` で番号引用: `\citep{ref}` に対応 ([1])
- `@ref` で著者名引用: `\citet{ref}` に対応 (hoge hoge et al.)
- `[@ref1; @ref1]` で連番引用 [1, 2]
- 以下引用テスト

```
[@R-base; @R-bookdown; @R-citr;  
@varian2014Intermediate; @wickham2016Dat
```

[2, 5, 1, 3, 4]

文献引用の補助: 引用子の補完

- 重複・書き間違えの防止
- citr パッケージを使うと楽
 - ツールバーの Addins から選択
 - zotero 連携機能あり

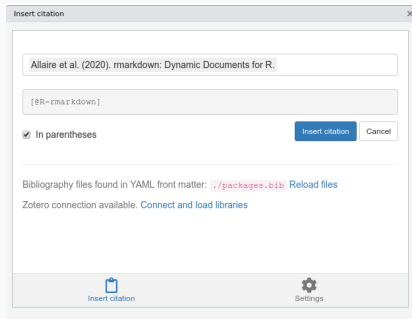


図 8: citr パッケージの GUI

文献引用の補助: 文献管理

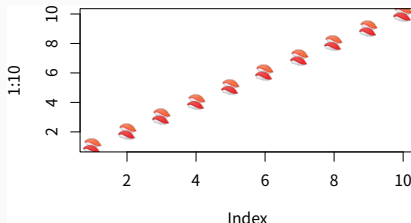
- Mendeley, Zotero, ReabCube の 3 つが多い?
- 私は Zotero を使っている
 - 多言語対応, 連携機能の充実, 料金などの理由
 - 参考: 『Mendeley Exodus Mendeley から Zotero への移行の手引き ~』
- RefManageR パッケージ
 - R で bib ファイルをパースしたりする
 - 文献管理用には既存ソフトで十分?

その他の機能

絵文字

- **BXcoloremoji** をインストールすれば可能
 - `\coloremoji{}` で絵文字表示: 🍷
 - RStudio エディタでは**表示が変な場合も**
- グラフ描画には特に設定必要なし
 - ソースコード上のものは文字化けする

```
plot(1:10, pch = "🍷")
```



トラブルシューティング

エラーの原因がよくわからない

- **キャッシュ削除すると良くなることもある**
 - (叩けば直るレベルのアドバイス)
 - 前回エラーで失敗したときのキャッシュが悪さしてることは結構ある
 - または `cache = F` でキャッシュを残さないようにする
 - エラーメッセージが実態と矛盾してるときはまず試す

まとめ

結果どうなったか

- **良**くなったこと
 - `lstlisting.sty` **より見やすい**シンタックスハイライト
 - R の画像や数値出力を **コピペしなくて済む**
 - 一画面に収めるための構成だけ考えれば済むように
- **悪**くなったこと
 - (パワポユーザ的に)WYSIWYG でないので作りづらい?
 - 数式のリアルタイムレンダリング/補完は LyX が依然優秀
 - python 作業中 (jupyter notebook への) **不満高まり**
 - ポンテ絵も `ggplot2` で作らねばという **強迫症状**

改良したいところ

- 手動セットアップ作業の削減
 - 例: ヘッダのテンプレート化
- 細かいレイアウト修正
- 他の言語のシンタックスハイライト
- 最低限のテーマ変更オプションの追加

細かい技術的な話

yaml ヘッダ設定: 出力の設定

- Xe_LAT_EX 生成
 - Lua_LAT_EX使用者が多数派?
- “keep_tex: true” エラー発生時の原因
特定に

```
output:
```

```
  beamer_presentation:
```

```
    latex_engine: xelatex
```

```
    citation_package: natbib
```

```
    keep_tex: true
```

L^AT_EX プリアンブル: テーマ設定

- metropolis テーマを使用
 - <https://github.com/matze/mtheme>
 - 他のモダンなテーマは日本語と相性悪い
 - “beamer_presentation:” 内で指定すると**オプション指定できない**

header-includes:

- \usetheme[progressbar=frametitle,blocklist=tableofcontents]
- \makeatletter
- \setlength{\metropolis@progressinhead}{0pt}
- \usefonttheme{professionalfonts}

L^AT_EX プリアンブル: 日本語フォント設定

- zxjatype で日本語フォント読み込み
 - mainfont: <HOGEHOGES> も可
 - しかし欧文和文で別にしたい
- 和文欧文サイズ比調整などは開発者のサイト等参照

```
- \usefonttheme{professionalfonts}
- \usepackage{zxjatype}
- \setmainfont[Ligatures=TeX]{Palatino Li
- \setsansfont[Ligatures=TeX]{Arial}
- \setmonofont{Ricty Diminished}
- \setjomainfont{Noto Serif CJK JP}
```

L^AT_EX プリアンブル: その他の設定

- ハイパーリンクの色を見やすく変更
- “Figure 1”, “Table 1” を「図 1」「表 1」に
- 参考文献リストのフォントサイズ縮小
- コードチャンクに行番号
 - 表示は選択式
- その他いろいろな微調整

日本語文献にどう対応しているか

- **jecon.bst**を使いたい
 - BibTeX はマルチバイト文字未対応
 - upBibTeX が必要
- knitr は日本語書誌情報処理未対応
 - 内部では自前の設定で latexmk を呼び出し
 - 呼び出しているラッパにオプションがない
 - 積極的に改修の気配なし (参考)
- 自前の設定を使用する (参考)
 - tinytex.latexmk.emulation = F
 - **ここ**を参考に.latexmkrc 設定
 - **Rmd と同じディレクトリ**に上記を置く
- もっとシンプルな方法を**検討中**

些細だが気に入らないこと (試行錯誤中)

- 番号式の引用子の設定方法
 - `citation_package="natbib"` 指定した上で `\usepackage[number]{natbib}`
 - 前者を指定しないと $\text{BibT}_{\text{E}}\text{X}$ を使わない仕様?
- 逆にテーマのオプションは `render(theme=)` に指定不可
 - 二重定義はエラーの原因になるため
- 自作 beamer テンプレートと比較して微妙にフォントサイズが違う (なぜ?)
- 相互参照機能
 - **こういう方法**でできるらしい
- 面倒な下準備せずに $\text{upBibT}_{\text{E}}\text{X}$ 使いたい

- [1] Aust, Frederik (2019) *citr: RStudio Add-in to Insert Markdown Citations*, retrieved from [here](#), R package version 0.3.2.
- [2] R Core Team (2020) *R: A Language and Environment for Statistical Computing*, R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria, retrieved from [here](#).
- [3] Varian, Hal R. (2014) *Intermediate Microeconomics: A Modern Approach*, New York London: W.W. Norton & Company, 9th edition, (佐藤隆三訳, 『入門ミクロ経済学』, 勁草書房, 2015 年)

- [4] Wickham, Hadley and Garrett Grolemund (2016) *R for Data Science: Import, Tidy, Transform, Visualize, and Model Data*, Sebastopol, CA: O'Reilly, first edition edition, retrieved from [here](#), (黒川利明・大橋真也訳, 『R で始めるデータサイエンス』, オライリー・ジャパン, 2017 年) .
- [5] Xie, Yihui (2020) *bookdown: Authoring Books and Technical Documents with R Markdown*, retrieved from [here](#), R package version 0.18.